

# 長崎の100年に一度の変革期について—長崎駅周辺地区 長崎県土木部都市政策課

## 1. はじめに

県土の三方が海に面する長崎県は、九州の北西部に位置し、離島や海域を含めた県域は九州本土に匹敵する広さを有しております。人口約127万人が暮らしています。本県は、江戸時代におけるオランダ・中国との交流の歴史など、古くから我が国の大陸・西洋文化の窓口として、大きな役割を果たしてきました。平成27年7月には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が、平成30年7月には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録され、国内外から多くの方に訪れていただいております。

現在、本県の県都である長崎市において、西九州新幹線の開業や全国有数のクルーズ客船が寄港する長崎港松が枝国際観光船埠頭の2バース化に向けた取組みなど、様々な大型プロジェクトが同時並行的に進んでおり、長崎のまちの佇まいが大きく変わる、まさに100年に一度の変革期を迎えております。今回、長崎駅周辺地区で進められている様々な事業について、ご紹介させていただきます。

## 2. 長崎駅周辺再整備事業

### (1) 九州新幹線西九州ルート

九州新幹線西九州ルートは、昭和48年に全国新幹線鉄道整備法に基づく整備計画路線として決定された「整備新幹線」で、平成24年に、フル規格での工事計画が認可され、令和4年9月に西九州新幹線として開業しました。また、県内で駅が整備された長崎、諫早、大村の3市では、新幹線開業の効果を最大限に活かすため、駅周辺における新たなまちづくりが進んでいるところです。

### (2) JR長崎本線連続立体交差事業

この事業は、鉄道の高架化により踏切をなくし、都市交通の円滑化や踏切事故の解消を図るとともに鉄道によって東西に分断されている沿線市街地の一体的な発展を図るもので

令和2年3月に高架線路に切り替わり、JR長崎駅は新幹線

駅と一緒に高架駅として供用を開始し、「長崎の新たな陸の玄関口」となっています。

### (3) 長崎駅周辺土地区画整理事業

この事業は、JR長崎本線連続立体交差事業により移転される車両基地の跡地などを含めた面積約19.2haの区域において、鉄道施設の受け皿を整備するとともに、道路や駅前広場などの基盤整備を行い、土地利用の転換・有効利用を図り、国際観光都市長崎の玄関口にふさわしい都市拠点を形成しようとするものです。現在、事業完了に向けて、駅前広場の整備を実施中で、長崎駅西側には、令和3年11月に交流拠点施設である出島メッセ長崎が開業するなど、新たなまちづくりが進んでいます。

### (4) 大黒町地区第一種市街地再開発事業

長崎駅より約200m東側にある長崎交通産業ビルとその周辺を含む大黒町地区において、課題となっている既存建物の老朽化や耐震性の不足、さらには交通結節機能の強化や防災性の向上を図るために、市街地再開発事業が計画されています。

現在、準備組合により、早期の都市計画決定及び事業化に向けて、各種調整がなされており、景観に配慮した合理的な高度利用を行い、長崎駅周辺と連携したにぎわいのある都市空間を形成することを目指しています。

## 3. 長崎スタジアムシティ

長崎市を南北に縦貫する国道206号、都市計画道路浦上川線の沿線に位置し、JR長崎駅及び浦上駅からほど近く、公共交通の利便性の高い場所にあった三菱重工業(株)長崎造船所の幸町工場跡地において、ジャパネットグループにより進められたプロジェクトで、令和6年10月に開業しました。

この施設は、サッカースタジアムとアリーナ、ホテル、商業施設、オフィスから成る大型複合施設であり、長崎に新たな娯楽を提供するとともに、良好な市街地環境を創出し、併せて、雇用の創出と交流人口の拡大を生み出すことで、都市の活性化に大きく寄与するものと期待しています。



図1 長崎駅周辺地区 整備イメージ図



図2 長崎スタジアムシティ外観 (提供:長崎スタジアムシティ)